

(歌詞カードを配付)

これから、東日本大震災で亡くなられた方々へお祈りをする式を行います。

(座っていいです。少し長い話になりますが、みんなに対して本気になってメッセージを送りますから、みんなも一生懸命聞いて考えてください。)

東日本大震災というのは、今から14年前に起きました。最上級生の6年生でもこの時生まっていた人はいませんから、どこの小学校でももう小学校には東日本大震災のことを知る人はいないという時代になってきました。

それで、これから式を何のために行うか、その目的は2つあります。一つは福島県に生きる人間として、東日本大震災があったということを忘れてはいけない、知っていなければならぬため、二つ目は毎年、この日に合わせて、改めて命の大切さを一人一人に考えてもらうためです。

はじめに、庭坂小の先生を代表して、校長先生が、東日本大震災で亡くなった人たちの魂が安らかに眠ることができるよう、もう一つは今命あって生きている庭坂小のみんなに命を大切にしてほしいというメッセージを込めて歌を歌います。魂を鎮める歌、レクイエムと言いますが、その役割をこめて歌います。「あなたが夜明けをつげる子どもたち」という歌です。

(演奏「あなたが夜明けをつげる子どもたち」)

今から14年前の2011年3月11日 午後2時46分、私たちの住む福島県、隣の宮城县や岩手県を中心に、東北太平洋沖地震と呼ばれるものすごく大きな地震が起きました。

そのすぐ後、海ではこの地震が原因となった大津波も発生しました。

その大きさは、高さで言うと20mを越えていたと言います。

体育館の天井を見上げてみてください。

庭坂小の体育館は真ん中の一番高いところでも13mほどです。

つまり、こここの天井よりももっともっと高い波所から波が襲ってきたということです。

そして、その津波の強さはというと、津波が襲ってきた町の建物はすべて波に飲み込まれ、波が引いた後の街に残った建物は何もなかったというほどの強さでした。

それほど巨大な津波でしたから、2時46分の地震よりも、そのあとに起きたこの津波によ

って命を落とす人の方が多かったのです。

この2011年3月11日 午後2時46分の地震と、それが原因となった津波でおきた災害を東日本大震災といいます。さらに、福島県では、今度は津波が原因となって原子力発電所が爆発を起こし、大量に浴びたら死んでしまうという放射能が周りに飛び散ってしまうという災害もきました。

最初に、14年もたって震災のことを知る人がいなくなる時代になったと言いましたが、これらの災害によって、こんな長い時間がたっても、まだ自分の生まれたふるさとや町、自分の家に戻れずにいる人がいるのです。

これが東日本大震災です。こういう大変な出来事が、この福島県で起きたということを、福島県に住む一人として覚えておいてください。

それが今日の式の一つ目の目的です。

次に、二つ目の目的の「命」についてです。

みなさん、想像してみてください。

ここの大井より高く大きな波が自分に近づいてくるということは、どれほど恐ろしかったことでしょう。

そして、あの日は地震の後、急に雪が降ってきました。それなのに、流されてしまった3月の海の水は、まだどれほど冷たかったことでしょう。どれほど寒かったことでしょう。

みんな、まだまだ生きて、大好きな家族と楽しいことをしたり、おいしいものを食べたり、友達と遊んだりしたかったはずです。どれほど悔しかったことでしょう。

地震や津波で亡くなった人たちの生きたくても生きられなかつたその思いを、今の自分が持っている知恵や想像力を全部使って、本気で思い浮かべ、わかってあげてみてください。

ところで、去年のこの会では、命のことを考える材料の一つとして、去年のお正月に起き、その後みんなが募金活動をしてくれた石川県での大地震のことを取り上げました。実は、2年前にはトルコという国で東日本大震災や石川の地震と同じくらいの大きな地震があり、その地震でも多くの命がなくなりました。そのトルコの地震を伝えるニュースの中で、校長先生が今でも忘れられないシーンがあります。それは、10歳のみんなと同じ小学生の女の子が、自分が崩れた建物に挟まれて動けないのに、自分の命よりも先に、年下の自分の妹を守ろうとして、必死に助けを求めているというシーンです。

校長先生はこのニュースを見たとき、命を大切にすることはどういうことかということを、このたった10歳の女の子に教えられたような気がしました。そして、25年前に亡くなつた先生のお母さんることも思い出しました。テレビドラマの病院の場面などで、心臓の動きを表す心電図、ピッピッピッとなるやつを見たことがある人もいるでしょう。心臓が動かなくなると、つまり人が亡くなると、あれがピーッと線になつたままになります。

2000年8月5日の夜12時37分に先生のお母さんもそうなり、お医者さんに「亡くな

りました」と言われました。悲しいですから、家族がお母さんの名前を呼びます。すると、ピーッと線になっていた心電図が、またピッピッピッと動くのです。でも、もう心臓に力はありませんから、またすぐ止まります。でも、また呼びかけると、また動くのです。お医者さんに「亡くなりました」と言わされているのに、人はそうやって最後の最後まで、力を振り絞って懸命に生きようとしているのだと思いました。

人間ばかりでなく、命あるものはみな、何十年かすると命はなくなります。それは仕方のないことです。でも、死ぬために生まれてきているではありません。みんな、生きるために生まれて来て、生きているのです。そして、その生きている間に、楽しいこともつらいことも、うれしいことも悲しいことも、いろいろな経験を積み重ねていくことが生きるということ、命を大切にするということなのです。

去年のこの会から1年たった今、あれから1年間いろいろ勉強をして、いろいろ考えることができるように成了その頭で、改めて命について考えてください。そして、命を大切にしてください。大切なのは自分の命だけでなく、友達の命を大切にすることも同じです。

こんなに大切な命ですから、他人が人の命を奪っていいわけがありません。命を奪うとは、ピストルで撃ったり、刃物で切り付けたりして心臓の動きを止めることだけではありません。いくら心臓は動いていても、呼吸をしたり、食事をしたり、学校に来たりすることができても、心に元気がなくなって生きる元気がなくなることは死んだことと同じです。

ふだんは友達に優しい声をかけたりしてくれるみんなですが、そのみんなも、人の心の元気を奪ってしまうかもしれないおそろしい武器を、実は持っています。

それは「言葉」です。

友達に何か言うときの言葉の使い方、いじわるな言葉やその言い方、インターネットやSNSでの悪口など言葉によるいじめ、その言葉さえ使わない無視という行動、これらはみな、人が生きようとする元気をなくさせる恐ろしい武器です。そんな武器は絶対に使ってはいけないのです。

そういう誰もが持っている恐ろしい、チクチク言葉という武器を、決して友達に向けてはいけない、それが命を大切にすること、一生懸命生きることだと思います。

そして、それがもっと生きたくても生きられなかつた東日本大震災で亡くなつた方々へ対して、今、命をもらってこうして生きている私たちができることだと思います。

みんなも、今日の集会に参加して話を聞いてみて、また、震災で亡くなつた人たちのいろいろな気持ちを想像してみて、自分や周りの人たちの命をどう大切にするか、どうやって一生

懸命生きるか、本気で考えてみてください。さっきの歌にあったように「この地上で、みんなの命より偉大なもの、大切なものは何もないんです」それを感じ考えることが今日の2つ目の目的です。

静かに立ちましょう。

では、この後、東日本大震災で亡くなられた方々へ黙祷を行います。黙祷というのは心の中でお祈りをすることです。やり方は、由華先生の「黙祷」という合図があったら、目をつぶり、軽く頭を下げ、心の中でお祈りをしてください。手は気を付けのままでも、普通のお祈りをする時のように胸の前で両手を合わせてお祈りしてもどちらでも構いません。時間は1分間、由華先生の「やめ」という合図があるまで続けます。

では、黙とうの準備をします。

(黙祷)

前を向きましょう。

これで校長先生の話を終わります。